

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 徳力 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

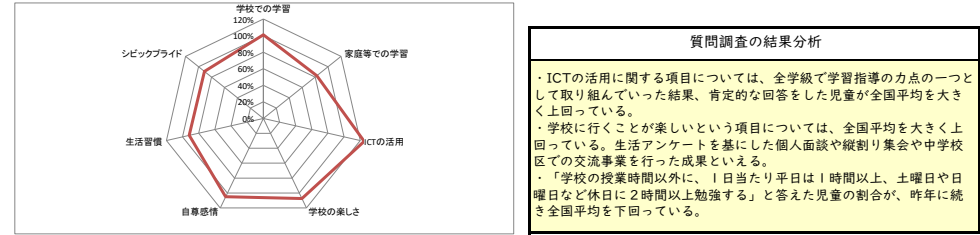
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っている。文の中の漢字を正しく書き表す問題や、登場人物の心情を表す問題について正答率が低く課題となっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話し言葉と書き言葉の違いに気づくことができるかどうかを見る問題	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回っている。特にデータの活用領域と変化と関係領域について正答率が低く課題となっている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかみる。	
	努力が必要な問題	速さが一定であることを基に、道のりどじかんの関係について考察できるかどうかを見る問題。 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかを見る問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・徳力小学習スタンダードを全職員で共通理解することで、全クラス統一した授業づくり・学習規律の基盤を整えていく。
・自分の考えを書き表し、友達と共有する中で自分と友達の意見の相違点や良さに気づくことで、「思考力・判

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の意義や方法について児童に丁寧に説明を行い、児童の自主学習の習慣が定着するようにする。また、保護者に対しても学校・学年通信で啓発を行い、協力を得るようにする。
--